ＫＩＣＥ研究実践９８

KICE

神奈川インターネット教育活用研究会

http://kice.ed.ynu.ac.jp/

「ＫＩＣＥ研究実践９８」によせて

ＫＩＣＥ代表
出口和生
exit@po.teleway.ne.jp

「神奈川県内のインターネット接続校で集まれたらいいのにな～。」

平成８年３月。当時の１００校プロジェクト研究会でこんなことを思いました。同じ場にいた当時横浜国大院生だった高橋さんに話をすると，「じゃあ僕がメーリングリストを作りますよ。」と快い返事をもらえました。これが，ＫＩＣＥのスタートでした。

「１００校プロジェクトの集まりだから書き込みにくいんだよね。」

それから２年。口コミでメンバーは増え，５０名を越えるようになりましたが，研究会も数ヶ月に１度しか行われず，メーリングリストも閑古鳥が鳴き始めました。スタートが１００校プロジェクト校の集まりだったために，後から入られた方に敷居の高い思いをさせてしまったようでした。また，明確な話題や目標がなかったことも閑古鳥の原因でした。

「永野先生を囲む会を最後に一旦解散！もう一度最初からやり直そう！」

もう一度初心に戻り，神奈川県内でインターネットの教育活用をめざしている人たちが集まって自由に話が出きる場を作ろうということになりました。そこで，平成１０年３月，静岡大学永野教授をお招きして，「囲む会」を企画しました。県内各地から５０名が会場である横浜市立本町小学校に集まり，それぞれが熱い思いを胸に，（初期）ＫＩＣＥは解散しました。

「（新）ＫＩＣＥは自己登録制。人数が少なくても毎月研究会を開こう。」

（初期）ＫＩＣＥ解散の翌日から（新）ＫＩＣＥの登録が開始されました。これまでの反省を踏まえて，メーリングリストは自己登録制とし，とにかく毎月どこかで顔を合わせて話をすることにもしました。また，隔月で県内各地の学校・施設を回って情報交換するとともに，必要であれば技術的なサポートをしていくようになりました。ようやく軌道に乗りました。

「２週間でＫＩＣＥ冊子を出そう！！！」

この無謀な計画が１１月２１日の定例会で決定しました。めざすは１２月４日のＣＥＣ研究会でのこの冊子配布です。ＣＥＣの冊子に掲載される実践は除くことも決まりました。しかも，原稿締切まで１週間弱しかありません。それにも関わらず，多くの方が賛同・協力してくださり，この冊子ができあがりました。改めてＫＩＣＥメンバーの凄さを実感するとともに，３年間ＫＩＣＥを続けていてよかったと心から思っています。

「ＫＩＣＥ研究実践９８」完成！そして「９９」「２０００」を夢見て・・・

マルチメディアプロジェクト学習

横浜市立本町小学校
島田　優・出口　和生
exit@po.teleway.ne.jp

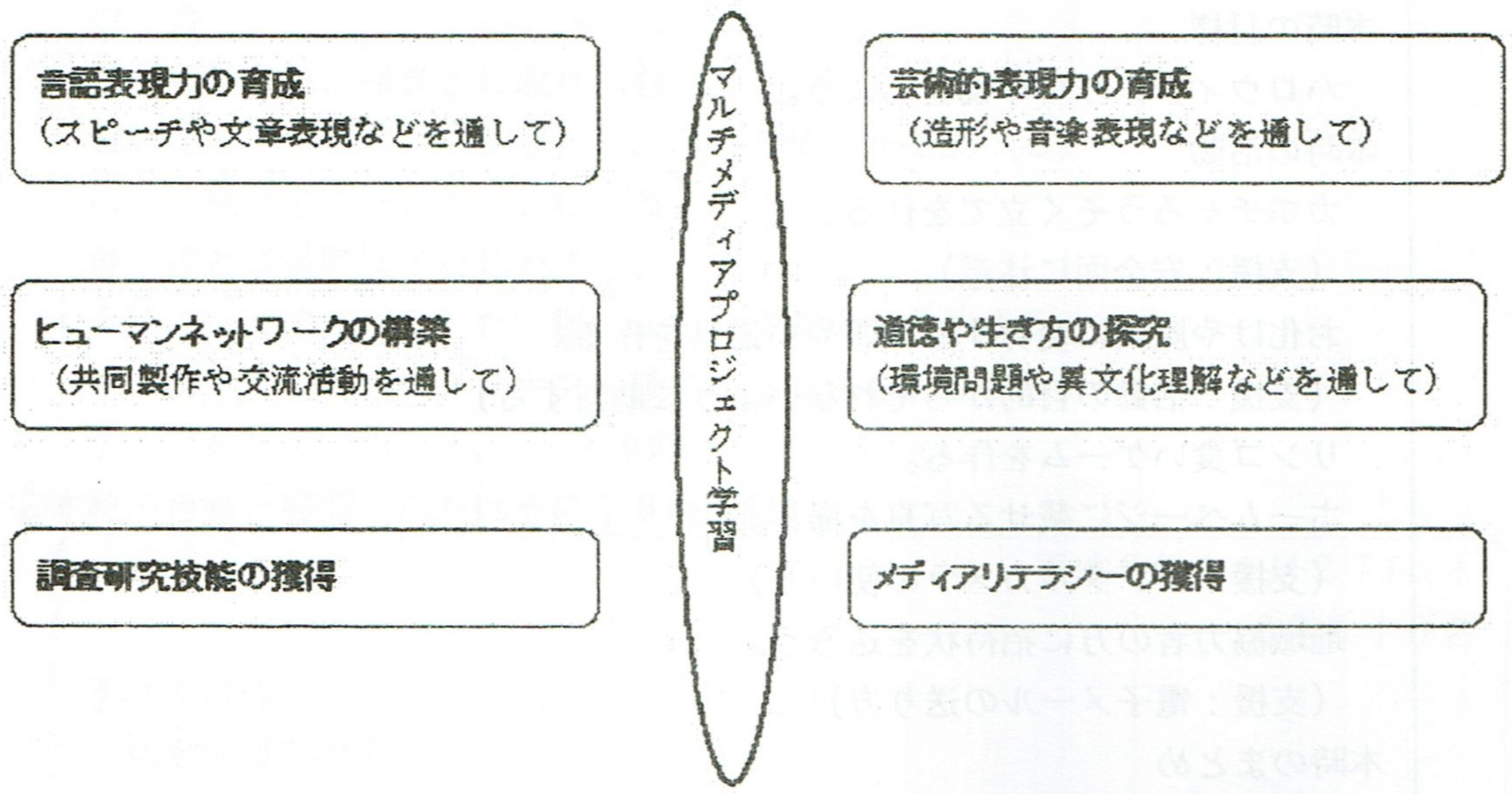
1．マルチメディアプロジェクト学習に至るまで

子供たち自らが主体的に日々の生活や学習をつくることを大切にしていこうと，「主題追究学習」を進めてきた。学習内容をおさえ，学習の方向を見定めて展開する「主題追究学習」は，単独の教科等で成立することもあれば，複数の教科等を総合的・横断的に関連させながら包括する場合もある学習である。加えて，オープンスペースの特色ある校舎構造を有する本校がスタートして以来大切にしてきた「情報教育」。発達段階において，情報教育がどのように関わることで，子供たちの学びをより活性化し主体的なものへと高めることができるのかは常に課題とされ検討されてきた。

平成９年度は，「主題追究学習」と「情報教育」の２つの視点から子供たちの学びをとらえようとした。研究を進めていく中で，これらが支え合ったり，総合的に関わったりする部分が多いことが明らかになってきた。また，「主題追究学習」と「情報教育」が結びつくなかから，子供たちのより豊かな学びが展開される可能性が感じられた。このようにして，２つが融合される形を考えてきた。

折しも，大阪教育大学田中博之助教授より，本校の研究に貴重な示唆をいただいた。それは，「マルチメディアプロジェクト」の発想である。

（田中先生の示されたマルチメディアプロジェクト図）



この発想は，本校の取り組む方向性に大きな関連があると考え，以後の指針ととらえ内容の整理を図ったのである。

2．マルチメディアプロジェクト学習について

学習内容をおさえ，学習の方向を見定めて展開する「主題追究学習」は，単独の教科等で成立することもあれば，複数の教科等を総合的・横断的に関連させながら包括する場合もある。本校では，「主題追究学習」のなかで複数の教科等を総合的・横断的に関連させながら包括する場合を「総合的学習」ととらえている。

したがって，「マルチメディアプロジェクト学習」は，コンピュータを活用しながら，共通の目的に向けて，共同の学び合いが生まれてくる総合的学習と考えている。

3．「マルチメディアプロジェクト学習」と「自己教育力」

昨年度の研究より，「マルチメディアプロジェクト学習」を進めていくことは，本校の教育理念「自己教育力」に深い関わりをもつことがわかってきた。すなわち，この学習が成立することは「意欲・態度」に裏付けられていることに他ならない。また，この学習を通しての意識や行動の広がりや深まりは，子供自身の「生き方や意志」に深く関わってくる。

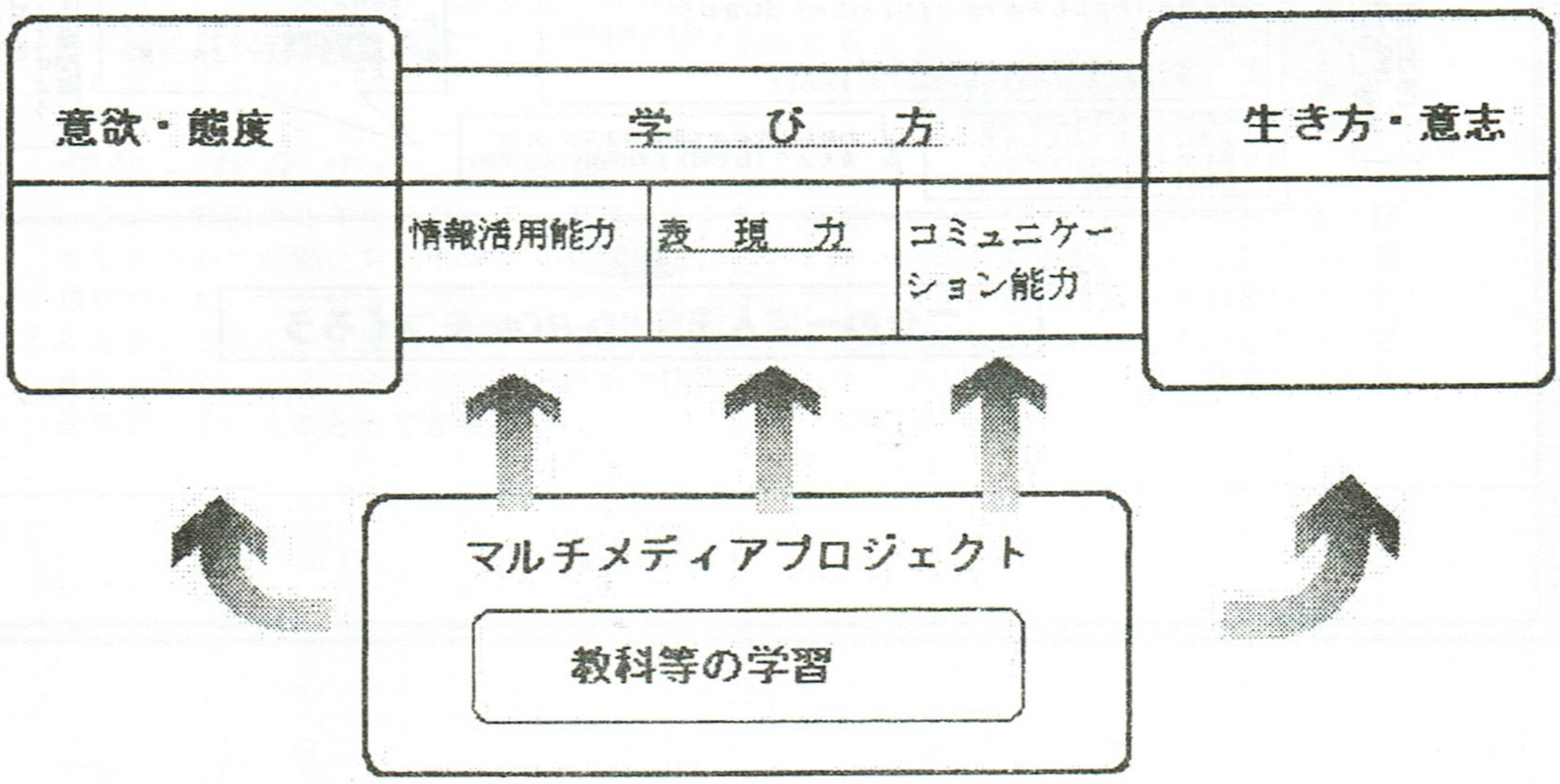
それでは，「学び方」に関してはどうか。本校では，田中先生の示された6つの要素を学び方の視点より分析し，以下のように整理した。

言語表現力の育成，芸術的表現力の育成 …… 表現力

ヒューマンネットワークの構築，道徳や生き方の探究 …… コミュニケーション能力

調査研究技能の獲得，メディアリテラシーの獲得 …… 情報活用能力

このように，「情報活用能力，表現力，コミュニケーション能力」の3つの要素で整理された内容を，本校の教育理念である「自己教育力の育成」に関する「学び方」の視点としてとらえ示した。



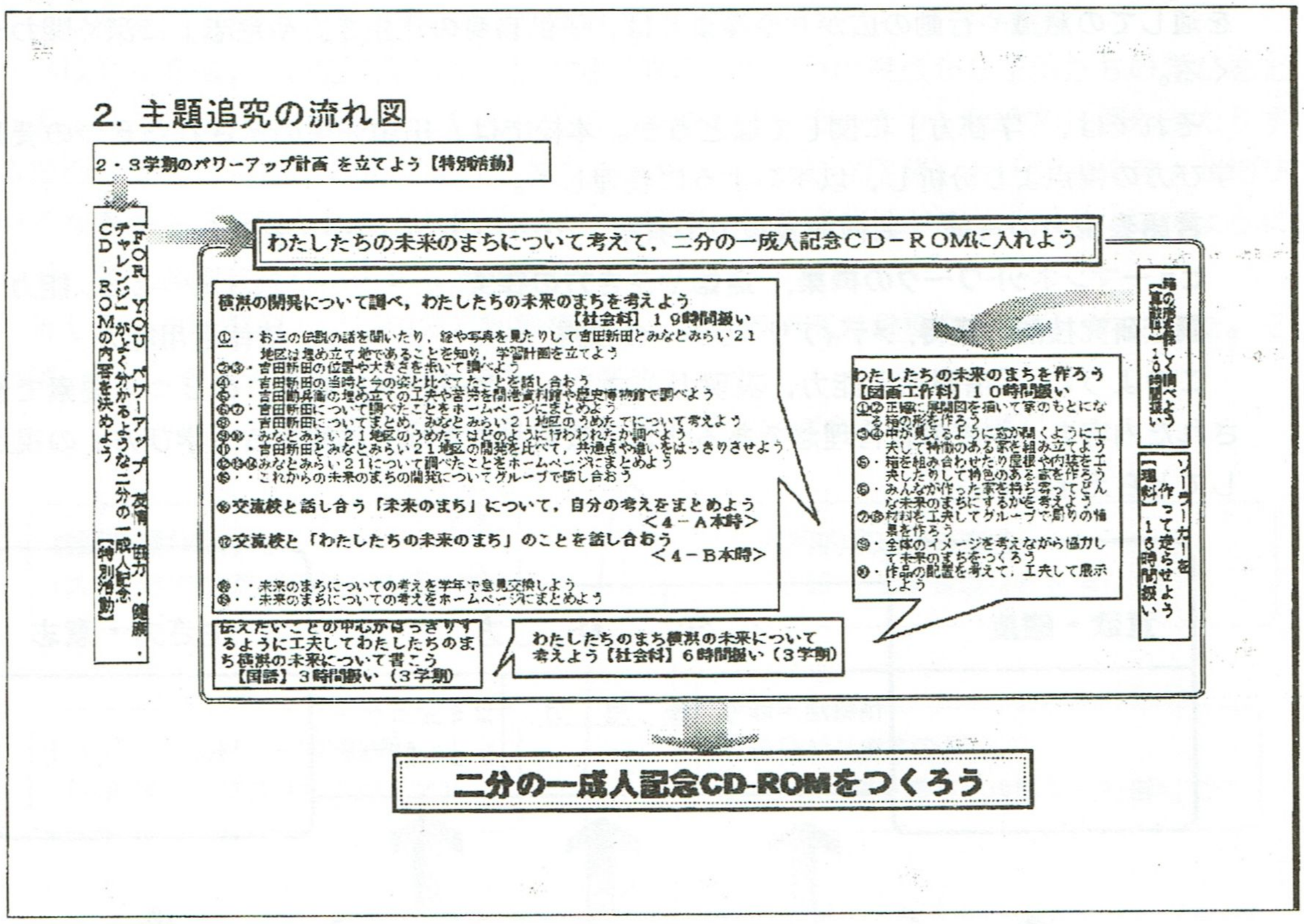
「自己教育力」は，「自ら高い目標を定め，その目標をめざしてたゆまず自己を教育し続けながら心豊かにたくましく生きていく力」と本校ではとらえてきた。そして，「自己教育力の育成」に不可欠な視点として，「意欲・態度」「学び方」「生き方・意志」の３視点を大切にしてきた。

４．コンピュータを活用した総合的学習

「マルチメディアプロジェクト学習」の計画

学習内容をとらえ，学習の方向を見定めた「主題追究学習」を進めながら，コンピュータ活用について検討し「マルチメディアプロジェクト学習」を「主題追究の流れ図」の中に示した。

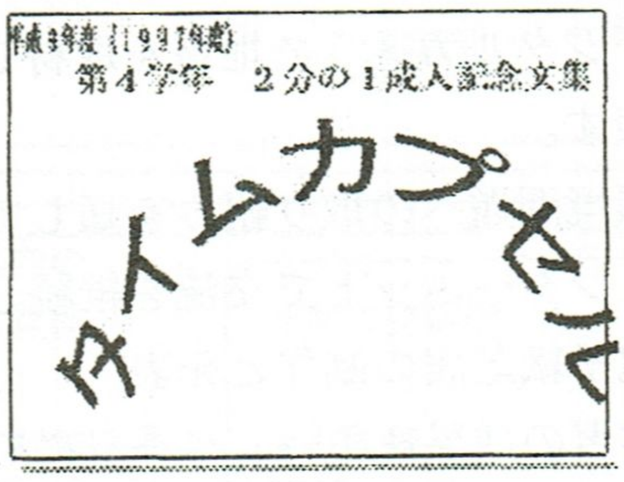
この学習を通して，子供たちにとって切実な問題や強い関心事，今日的な生活の問題等に対して，より子供たちが主体となる学習が展開されていくことを期待した。作品等をつくるだけでなく，学習計画を立てたり，情報収集のための調べ学習や友達との学び合い，たくさんの人達との交流などを通して，意欲をかき立ててくれる場を提供することを予想し，共通のテーマをもちながらも，個別の課題に向けての取り組みを通して，自分の可能性に自信をもち主体的な学びの姿をつくると考えた。



他地域との交流を広げる４年生

ＣＤ－ＲＯＭ作成に向かって

昨年度の４年生が作ったCD-ROMを４月の学年スタート時に見ることによって，一人一人がめざす学習のイメージをもつようにした。そうすることで，子供の主体的な学習や意欲的な活動が期待できると考えたからである。子供たちは，昨年を越える（学年目標パワーアップ）よりよいCD-ROMを作りたいという思いや願いから，友達と進んでかかわり，よいものは学び自分に取り入れていこう，自分のよいところは友達に教えようという友達との学び合いが育っていった。また，学年で一つのものを作っていこうという目的に向かって，切磋琢磨していく姿が見られるようになった。



共通体験「ケナフ栽培」と「テレビ会議」交流

また，「ケナフ栽培」という共通学習意識をもった神奈川県津久井郡千木良小学校，「２年生の時の田んぼ交流」という仲間意識をもった和歌山県熊野川小学校との交流を１学期より定期的に行っている。こうしたマルチメディアプロジェクト学習により，理科「生き物アルバムをつくろう」社会科「私たちの住む神奈川県をまとめよう」などの学習が深まっていった。

さらに，CD-ROMを作る段階で地域や家族など目的をもったふれあいが行われた。その中で自分の１０年間の成長やそれにかかわった人への感謝の気持ちが生まれ，さらに記念のCD-ROMをプレゼントしたいという思いにつながっている。

コンピュータ活用の点では，自分が調べたことや考えたことをコンピュータに保存し，CD-ROMにするという目的に応じて再加工できるようになってきた。また，ホームページを作ったり，交流校のホームページを見たりする中で，たくさんのデータを送るのではなく，見る人の立場に立って情報を整理することの必要性を感じるようになってきた。

学年一体化グループ編成

基本３学級の４年生全体を１つの集団と考え，問題別グループ，方法別グループなど様々なグループ活動に対応することができた。たとえば，学年一斉活動において，Ｔ１は多目的ホール，Ｔ２は４年学習センターなど，オープンスペースを利用した活動場所に対応したり，２グループ編成にしてＴ３が両グループの支援に臨機応変にあたることなどができた。更に，一人の子供を学習の評価の観点に沿って，Ｔ１，Ｔ２，Ｔ３が観点を変えた評価をしていくこともできる。

６．成果と課題

（１）マルチメディアプロジェクト学習から広がった夢と希望

２年生の子供たちが，遥か数百キロメートルも離れた子供たちと，それぞれが大切に育てている「いね」についてテレビ会議を通して話し合っている。テレビに映し出された相手校の子供たちと初めての出合いであるのだが，まるで以前からの友達であったように話に花が咲く。表情も輝き言葉も弾む。本年度，具体的に「マルチメディアプロジェクト学習」として立ち上がった内容は次のようなものである。

○デジタルカメラで地域を取材し，データをコンピュータで加工し学習発表会で成果を表す。

○環境問題への取り組みを通して広がった人と人との交流や体験をまとめ,発信したり，インターネットで交流を継続したりする。

○電子紙芝居の制作と発表

○学習の成果をホームページにして発信

○お絵かきソフトを用いて作成した作品を運動会で活用

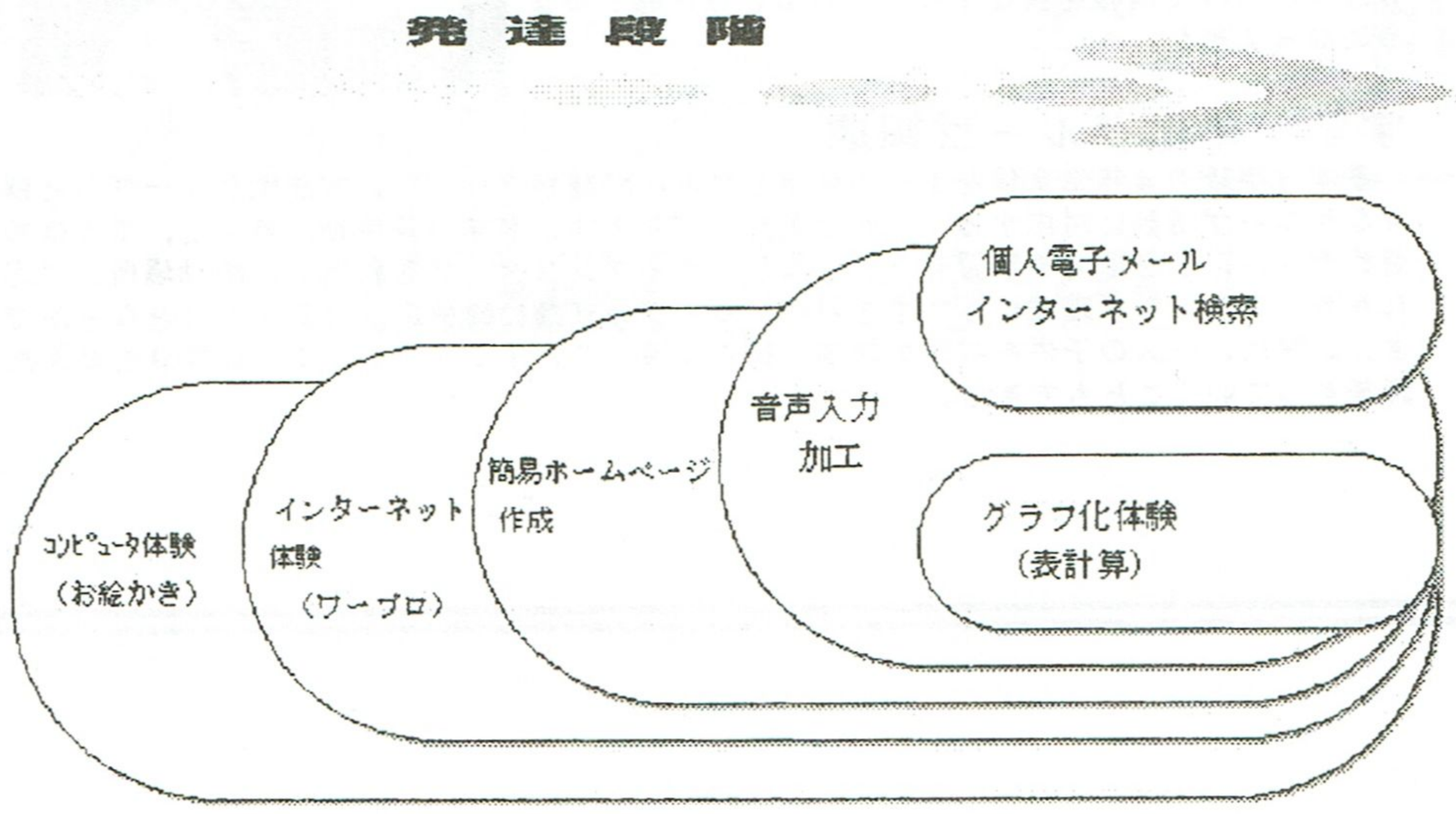
○テレビ会議システムを用いて，学校間交流

○ＣＤ－ＲＯＭの制作

「マルチメディアプロジェクト学習」は，ただ単に，コンピュータを用いての学習というのではない。子どもたちが活動の方向性を各自，明確にもちながら，活動を膨らませていくことに価値がある。加えて，活動を通して，あるいは活動の中で，より豊かなもの（人・もの・現象）に出会い，ふれあうことができるようになった。「マルチメディアプロジェクト学習」の実践をしながら，子どもたちが豊かな体験をする。それは，学校，地域，全国などに向けての新しいコミュニケーションを提供することもあるだろうし，新しい自分をさがし，自分の可能性を発揮することにもつながる。

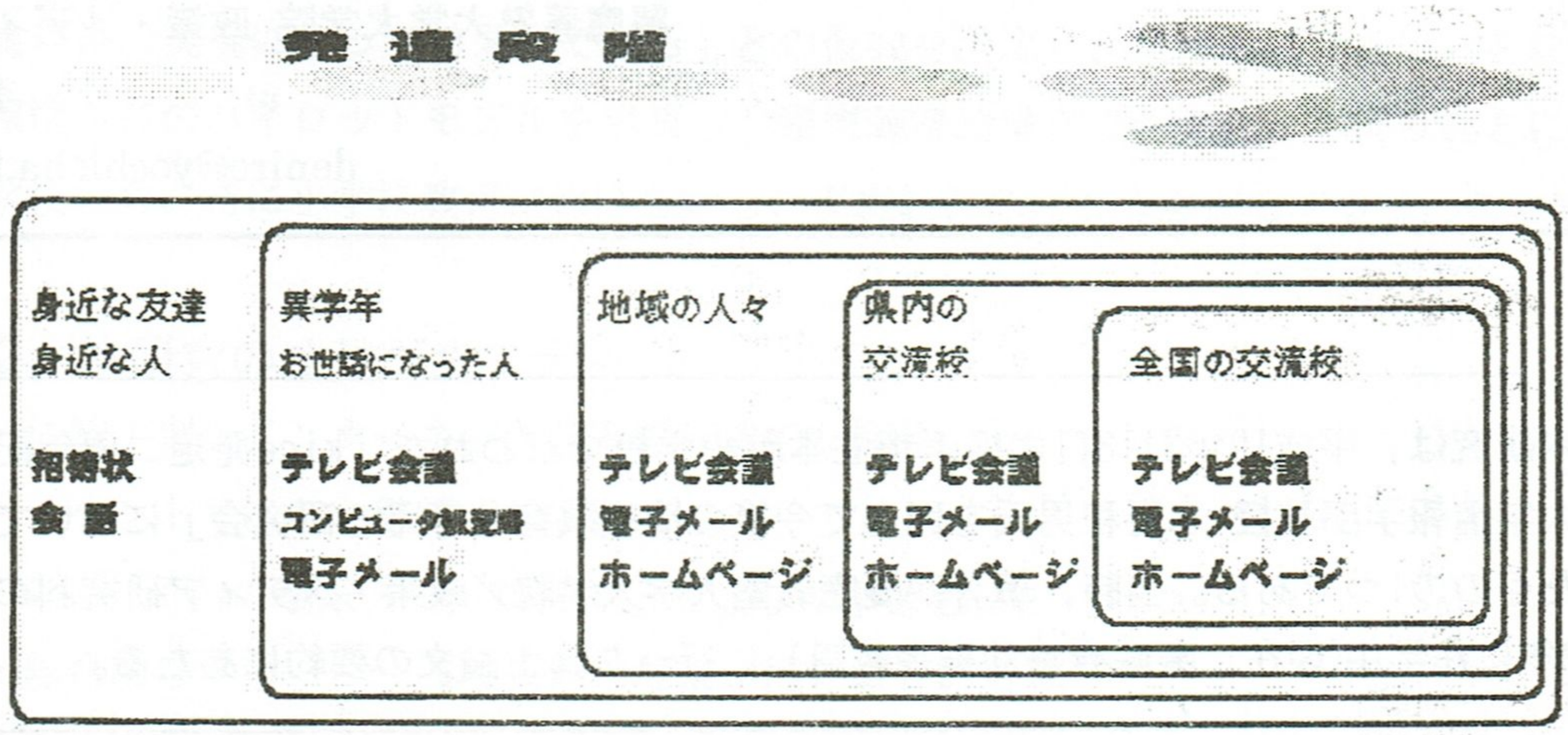
（２）情報活用の手段の広がり

平成９年度研究より「情報活用部会」により作成されたものをもとに，発達段階に応じて，情報活用の手段が以下のように広がりをもつことが実証された。



（３）発達段階におけるコミュニケーションの対象，手段

子供たちに身につけていける資質や能力のなかで，「活動を通して生まれてくる交流や学び合いの姿」に象徴される「コミュニケーション能力」のなかで，その手段や対象については，本年度は実践を通して次のようなことが明らかとなった。



「発達段階における表現力の系統や広がり」については本年度の研究において，具体的に示すに至らなかった。現在のところ，関連する教科等から表現力に関わる内容を提示するにとどまっている。言語，芸術等の広範な部分に広がるであろう表現力の細かな内容検討を今後の課題としてとらえたい。

様々な変化が予想される社会に生きる子供たちが，自分で課題を見つけ，自ら考え，主体的に判断したり，表現したりして，よりよく解決できることができる資質や能力の育成をはかることが学校教育の新しい思潮として伝えられて早１０年。ここでは，学習意欲を育て，自ら学ぶ意欲，思考力，判断力，表現力などを学力の基本とする学力観が示されたものであった。

そして，２１世紀を間近にした現在，子供たちにどのような力をつけようとするのか。そのために学校はどのように存在していくのか。このたびの教育課程審議会の答申で示された人間として総合的なバランスのとれた資質や能力，「全人的な力，総合学力」とはどのようなものなのかについても今後の検討すべき重要な課題ととらえ研究を重ねていきたい。

KICE メンバー　1998 年 11 月現在

出口	和生	横浜市立本町小学校
高橋	純	園田学園女子大学
山本	光	横浜国立大学教育人間科学部
松田	基章	横浜市教育委員会情報教育課
氏家	靖浩	川崎市立高津中学校
村松	雅	横須賀市教育委員会
五藤	博義	学習環境研究所
稲葉	茂	相模原市教育研究所
山根	健	慶應義塾大学 SFC 研究所
後藤	和仁	伊勢原市立成瀬小学校
橋口	龍郎	伊勢原市立伊勢原小学校
鈴木	二正	慶応義塾幼稚舎
元山	雅治	相模湖町立千木良小学校
松野	進	川崎市立桜本小学校
山崎	旬一	横浜商業高校
松村	正明	相模原市教育委員会
上野	顕子	清泉女学院中学高等学校
額田	順二	横浜国立大学教育人間科学部
宮澤	賀津雄	川崎市立川崎総合科学高等学校
鳥羽	美津代	川崎市立桜本小学校
村松	みゆき	星美学園
袋谷	祐二	株式会社日立デジタル平凡社
長谷部	実	川崎市総合教育センター情報教育研究室
浅野	智子	大和市立林間小学校
小池	慎一	横浜市教育委員会情報教育課
土屋	至	清泉女学院中学高等学校
弘田	政治	川崎市立聾学校
小島	淳一	清泉女学院中学高等学校
國重	誠之	R&D Computer Co. LTD.
佐藤	由紀子	日経ゼロワン編集部
小谷	孝夫	横須賀市教育研究所情報教育研究室
桑原	昌之	伊勢原市立大田小学校
中川	一史	メディキッズコンソーシアム副会長
近藤	大和	慶應義塾大学総合政策学部 3 年
井上	洋司	相模原市立淵野辺小学校
島崎	勇	大和市立林間小学校
古屋	好祥	横浜市立戸塚高等学校
鎌田	英広	（株）ネットプロ
永山	満夫	伊勢原市教育センター
安冨	直樹	横浜市立神大寺小学校
見崎	勝洋	横浜市立今宿中学校
副田	輝幸	横浜市立中川中学校

以上 42 名　登録順

「ＫＩＣＥ研究実践９８」
１９９８年１２月４日発行

編集　　ＫＩＣＥ冊子編集委員
発行　神奈川インターネット活用研究会